



農村伝道神学校後援会だより NO. 123



教会でのクリスマス

「渴くことのないように、その水をください」

林間つきみ野教会 伝道師 川浦 弥生 (第68回卒)



「補教師試験に落ちる人なんていないよお、大丈夫だよ、大丈夫(笑)」神学生の時、この言葉をいったい何度聞いたことでしょうか。先輩たちは「勉強なんてしなかったよ、大丈夫だよ」と言う。でも、やっぱり勉強しなくちゃ不安だ・・・と、100日前から補教師試験の準備をしました。女子寮の洗面室に掛けた連絡ボードにカウントダウンの数字を書き入れ始めました。サボり心に喝を入れるためです。しかし・・・、結果は、新旧聖書は合格、教憲・教規・宗教法人法だけが不合格でした。聖書で回答が不十分な場合に課されるようなレポートはなく、即不合格でした。赴任予定だった林間つきみ野教会は無牧でした。しかし、教会は「教職としてお迎えます」「私たちが望むのは資格ではありません。牧会者です」と言ってくださいました。非難する人は1人もおらず、かえって励ましてくださいました。心から感謝して、私は沖縄教区の宮古島伝道所から信徒として転会し、牧師館に住ませていただき、1年間、宣教の業に携わりました。

今年、創立37年を迎えた林間つきみ野教会は、数人の信徒の家庭集会から始まりました。この地域は、今から40年ほど前に開発された比較的新しい住宅街で、一戸建てがほとんどです。今ではそれぞれのご家庭の子どもさんは独立して、高齢者が1人、2人で暮らす家族構成も多いであろうと思われる地域です。まだ若かった頃、ここに家を建てた方たちは、どんな未来を思い描いていたのでしょうか。孤独な方がいるのではないかと、居場所を求めている方がいるのではないかと思います。教会ではこれまでコーヒータイトムという時間を月に一度設定して、近所の高齢者方が集っていたそうですが、担当して

いた教会員さんがさまざまな事情で続けられなくなりました。昨年までは年に一度、地域の方が中心のミューズCocoというグループがコンサートを開いていました。また、スマイル合唱団というコーラスグループやカルテットというグループが練習に会堂を利用していました。本当に残念なことに今年はコロナ感染症のために、教会が今まで積み重ねてきた地域とのつながりを続ける企画ができていません。私も週に2日は公立小学校でスクールカウンセラーとして働き続けているので、コロナ感染症の中で小学校の子どもと家庭を通して、若い家庭がどのように苦労しているかを身近に知ることができましたし、リモートワークや、公共交通による通勤の中で、教会員と同じ緊張を体験したのはよかったですと思いました。いつでも身をもってリアルに、今という時代を体験したいと願っています。教会内では病気療養中の方もいて、心身の安定をもたらすために週に一度、一緒に黙想座禅会をしています。

個人的な課題としては、沖縄と首都圏との社会状況の違いにいまだに戸惑っています。沖縄では否応なしに地域の具体的課題が生活の課題となり、非暴力・平和の願いは自分が生きていくために必須であることを肌で知ることができました。ですから御言葉の力が鮮やかに迫りました。でも、ここで生きていると、世界中のさまざまな問題がモザイクのように見え隠れし、かえって雲を掴むような気持ちになるのです。そして、格差が残酷なほどに見えてしまいます。もしかしたら、それがここで生きる人の漠然とした不安のありようなのかもしれません。砂粒より小さい私はどこにいるのか、私は本当に生きているのか。エルサレムを見て泣かれたイエスは、私たちの苦しみを知ってくださいています。渴きの中でその泉のいのちの水を求め続けていきましょう。



「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」(ヒロシマ平和公園慰霊碑)

高森茂光 (15期生)

100年は草木も生えないと言われたヒロシマ。戦後75年、ヒロシマは平和都市としてよみがえり生きている。

1945年8月6日午前8時15分、アメリカ軍のB29がグアム島から運んできた世界初の原子爆弾が広島市の相生橋上空で投下され、空中で爆発。広島市は一瞬にして壊滅した。人間が、科学者が発見し、開発した核エネルギー。最初に武器として使われたのである。強烈な閃光が走り、すさまじい爆風が吹き抜け、広島の中央に巨大な火柱が立ち上った。

私は当時、広島市立第一工業学校電気科3年生で、戦時下学徒動員で市内の中国電力(現在)の大洲製作所高圧実験室に徴用されていた。市内の多くの女子学生が疎開家屋の取り壊しに動員されていた。私は動員先から別の場所に向かう移動中、広島駅に近い辺りで被爆した。

アメリカの従軍牧師はB29の搭乗員の無事を願って神の恵みを祈ったと聞いている。広島のカリスト教徒たちも平和を求め神に祈っていたであろう。しかし、アメリカは勝者となり、日本は敗者となった。

この日から私は、宗教、キリスト教、仏教って何か? 人間と動物と何が違うのか? 「なぜ」という問いを心に抱いて、敗戦の戦後の混乱の中を歩み始めた。聖書に出会い、教会の門を叩き、信仰の説教に耳を傾けているうちに、神学を学びたいと思い、農村伝道神学校に足を踏み入れたのだが、私の心の問いの答えは未だ見出し得ていない。

どこか満たされない神学の学びの中で、神学生の時に伴侶となる女性と出会うことができ、「しあわせ」な喜びだった。迷い転び落ちそうな男と、妻は保育者として、私の人生に寄り添い支えてくれた。結婚後、私たちの遺伝子を継いだ娘と息子の二人の子どもが与えられたのはうれしく、生きる希望となった。しかし、娘は生後、医師からこの子の心音が気に食わないと言われ続けた。息子

が生まれたが、男の子は先天性肺高圧心筋症という病を持って生まれてきた。医師は姉弟が心臓病を持っていると次に生まれてくる弟妹はもっと重症な病を持って生まれてくると説明した。医師に言われて、長女も東京女子医大で診察を受けて僧帽弁閉鎖不全と診断された。

私の心に「なぜ」という問いが深さを増していく。14歳の少年があの時受けた原爆の放射能。放射能と遺伝の関係について、医学的には何も説明されてはいない。この原稿を書いている前でテレビが「愛と死の記憶」というテーマでヒロシマ原爆の被爆者の苦しみの問題を取り上げている。あれから75年、14歳の少年も89歳の高齢者となった。私の心の奥底に今も流れる「なぜ」は未だ答えが得られない。心の暗闇にある罪からの救いを求め続け、答えを得られないまま、私の人生は終わるのだろうか?

昨年、娘が、広島で私が住み、被爆した経験の足跡を共に連れて、歩いてくれたのはうれしかった。「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」私の罪を贖ってくださった主イエス・キリストに、私の懺悔の祈りを念じつつ、明日を生きようと思う。

付記 禿準一

今、病床の89歳の高森茂光牧師(写真左)は、1959年に農伝に入学したとき、寮で私ども2人は同室でした。高森さんは、1年遅く1965年に卒業し、お連れ合いの亡き久子さん(保育科7期生)と伊豆の修善寺、軽井沢、指宿の諸教会に仕えしました。娘の福万ユリ香牧師は、兵庫教区の聖峰教会(神田健次主任牧師)の副牧師として仕えています。写真は一昨年、禿(写真中央)が神戸を訪ねた折り、数年前に三木教会で隠退して神戸に住む、同級生の新 清緑牧師(写真右)と3人で神戸港の遊覧を楽しんだ時のものです。ちなみに新さんのお連れ合い、亡き糸子さんも保育科9期生です。



クリスマスプレゼントにおすすめ 手作りのペンダント

イクトウス(ジーザスフィッシュ)(左)、エゼキエルの十字架(タウ十字)の木製手作りペンダント、各800円。他にもクリスマスカードはがきタイプなどがあります。詳しくはお問い合わせください。

農伝事務所 FAX 042-735-5711 TEL 042-735-5775 メール kouenkai@noden.ac.jp



農伝チャペル 西川オルガンの修復

伊藤 信夫

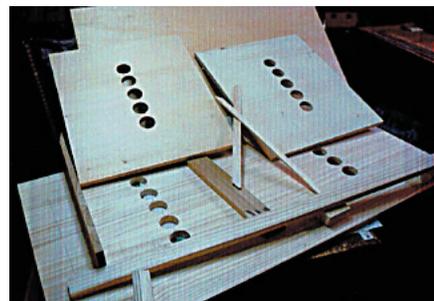
農村伝道神学校の西川オルガンは、Nishikawa & Sons と鍵盤上の板にロゴが書かれています。1909年（明治42年）～1912年（明治45年）に作られたと推定されます。

というのは、元三味線職人の西川寅吉が1884年にリードオルガン製作を始め、息子を米国オルガンメーカーのエステー社で修業させ、また、優秀な弟子を養子に迎えていた時代、製造オルガンのロゴをNishikawa & Sonsとしていたからです。のちに弟子が出ていってしまうと、sをなくしてNishikawa & Sonとしています。農村伝道神学校の西川オルガン内部Vox humanaの羽根部分にNishikawa & Sonとあり、1912年～1913年の代替わり時代の製品と思われます。

100年以上前に製造され、使用されてきたオルガンで、いろいろな修理者が関わってきたので、修理には手間が掛かりました。リードオルガンは足踏みで風袋の空気を掻き出し、鍵盤を押すことで空気の通り道を作って空気を吸い込み、音が出る仕組みになっています。その風袋や棚板に数多くの割れが発生して、気圧が保てない状態でした。傷みがひどく板の修理を諦め、棚板から下の大小風袋部分を新たに作成しました。真空であり、音を響かせる大事な共鳴箱部分も膠の剥がれを釘で修理した跡があり、この割れを直すのは容易なことではありませんでした。

修理が終わりオルガンを鳴らしてみると、西川オルガンの品のある柔らかい音が甦りました。大量生産されたものと違い、音にこだわった西川のリードオルガンは、弾き手にも聞き手にも心地よい、癒される響きの貴重な楽器です。現在、リードオルガンは製造されていませんが、修理することで甦り、楽器として利用できるのは素晴らしいことだと思います。肝心なことは常に風を通していくこと、使うことで、オルガンが良い状態に保たれます。

オルガン修理に関わることになったのは、文系の学科を出て会社勤めをしながらもともと工作好きのところに、オルガニストである妻・園子がオルガンの不具合を訴え、それに付き合いはじめたことがきっかけです。だんだんと興味が湧き、リードオルガン修理第一人者で長野県在住の和久井輝夫氏にもろもろ修理ポイントの教えを乞いました。そのうちに知り合いのオルガニスト・教会・学校から、相談・修理依頼を受けるようになりました。おっかなびっくり分解・整備・組立をしながら20年、オルガンオーバーホール修理台数は、農村伝道神学校の西川オルガンで81台目となりました。一般的に引退する年齢になりながら、人様から依頼を受けることはありがたいことです。リードオルガン修理は一台一台個性があり奥が深く、いつも考え考え、老化防止に良いと思いながら、頭痛い作業に感謝して挑戦しています。



新しく作成した大小の風袋



修理前のオルガン



修理後、柔らかい音が甦ったオルガン

Before



After

2020年度 農村伝道神学校後援会会計報告

2020年9月1日～11月2日()内の数字は回数で、金額はその合計です。

後援会献金(団体)	斎藤仁一・隆子 5,000	飯塚教会 2,000	新生教会 5,000	石井光子 5,000	浜本真理 5,000
志布志教会 3,000	佐々木英之助・和子	生田教会 50,000	新丸子教会 5,000	石川喜一 30,000	林伸吉・誠子 5,000
清水ヶ丘教会 30,000	10,000	池田五月山教会	仙台北三番丁教会	井上富子 2,000	星 健治 10,000
宗万農場 6,000(2)	島しづ子 100,000	10,000	20,000	氏原淳一 10,000	松本實枝子 5,000
中標津伝道所 10,000	高井好子 10,000	いずみ教会 6,468	普通寺教会 5,000	内村政清 5,000	水谷カヲル 1,000
日本キリスト教団千	高橋敬基 5,000	一関教会婦人会 5,000	茅ヶ崎教会 7,560	浦部昭一 3,000	柳 徳子 3,000
葉支区婦人部 10,000	高橋敏通 20,000	扇町教会 10,000	茅ヶ崎平和教会 7,000	大谷速子 50,000	林間つきみ野教会
日本基督教団西東京	田村ひろ子 3,000	大泉教会 15,000	千葉教会 30,000	兼重八重子 1,000	10,000
教区婦人委員会	土屋忠雄 3,000	大塚平安教会 10,000	調布柴崎伝道所 5,000	神武政枝 1,000	渡辺重義 5,000
10,000	岡岡容子 5,000	小田原教会 36,240	原宿教会 10,000	木下良子 5,000	無名氏 7,000
日野台教会 3,500	戸井雄二 2,000	鹿児島加治屋町教会	東梅田教会 25,000	吉良保子 5,000	匿名 1,000
合計 8 件	中村正俊 3,000	10,000	百人町教会 5,000	久保博夫 6,000(2)	匿名 2,000
金額 72,500	西村保典子 15,000	片倉教会 3,000	藤沢教会 27,000	小林利明・恒子 4,000	合計 43 件
	羽賀道信 3,000	上大岡協会 10,000	幕張教会 10,000	斎藤成二 5,000	金額 365,730
後援会献金(個人)	服部道子 5,000	上鳥羽教会 3,000	松崎教会 5,000	斎藤誠爾 20,000	
足立 守 10,000	原田和子 5,000	軽井沢南教会 1,000	箕面教会 8,000	坂本邦子 1,000	ひとつぶ献金
岩高 澄 10,000	深井麗子 1,000	神辺教会 3,000	宮古教会 5,000	鷲 美恵子 5,000	生田教会 60,800
牛田 匡 2,720	森岡恵子 5,000	久ヶ原教会 10,000	室町教会 6,000	佐藤智子 5,000	上大岡教会 18,000
大竹敏雄・陽子 5,000	ロバート&圭子ウイッ	熊取教会 10,000	守谷伝道所 10,000	四宮 賢 5,000	鶴川教会 20,000
大谷速子 20,000	トマー 20,000(2)	久米田教会 3,000	横浜上倉田教会 5,000	高倉謙次 5,000	水元教会 11,600
貝塚夕紀代 5,000	渡辺 教 3,000	桑名教会 24,080	横浜港南台教会	高谷三郎 5,000	三宅宣幸 10,000
景山末子 5,000	匿名 10,000	小石川明星教会 5,000	20,000	高橋 一 5,000	横浜二ツ橋教会
鐘ヶ江晴彦 10,000	合計 35 件	交野教会 5,000	若松浜ノ町教会 5,000	高橋とも子 5,000	28,300
樺澤幸雄 3,000	金額 322,720	埼玉和光教会 10,000	合計 51 件	辻井武志・嗣子 3,000	合計 6 件
川島堅二 10,000	記念日他献金(団体)	三・一教会 16,000	金額 615,348	角田文恵 1,000	金額 148,700
清田勝義 2,000	愛川伝道所 5,000	三本木教会 5,000	記念日他献金(個人)	豊田江美 100,000	
河野通久 3,000	秋南教会 10,000	信濃町教会 100,000	池迫嗣子 3,000	仁木美千穂 1,000	
小村牧子 3,000	荒川教会 2,000	下ノ橋教会 5,000	池田 力 7,730	長谷川吉男 3,000	
近藤晶子 1,000		新生釜石教会 5,000		服部栄・圭子 5,000	

●お願い

領収証ハガキについて不要な方は、右図のように、
不要 に必ずチェックを入れてくださるよう、お願いします。

払込取扱票(メッセージ欄の下)

領収証 チェックを入れてください。
要 不要

事務局だより

◇2018年3月に卒業された川浦弥生先生に1ページ
 でご執筆いただきました。卒業式に出席された林間つ
 きみ野教会の皆さんのお姿が思い起こされます。
 ◇後援会だよりでは、以前より卒業生からの寄稿を呼
 びかけていますが、今回は第15期生・高森茂光牧師
 からのご寄稿で「なぜ」という問いが伝えられました。
 ◇チャペルの西川リードオルガンは半年以上かかって、
 修復されました。毎日のように空気を通して弾いてい
 れば20年は大丈夫とのこと。100年以上前に製
 造された西川オルガンを引き継いでいきましょう。修復
 記念コンサートを後援会で計画しましたが、新型コロナ
 ウイルスの影響で開催できず、修復者の伊藤信夫さん

に、西川オルガンの特長、修復でのご苦労はじめ、
 奥深い内容をご執筆いただきました。礼拝音楽のため
 にリードオルガンが整えられ感謝いたします。
 ◇毎年3月の農村伝道神学校支援コンサート開催時期
 も検討しています。ご関心をお持ちの方は後援会へメ
 ール、FAX などでお問い合わせください。
 ◇クリスマスはがき一覧、みどりファミリーはがき24種
 一覧ができました。郵送、Eメール添付でお送りします。
 農伝グッズ、はがきのご注文もお願いいたします。
 ◇たくさんの方の神学校日献金を全国からお寄せいただき
 深く感謝を申し上げます。

(後援会実務会)

2020年度後援会会計報告

2020年4月1日～2020年10月30日現在

収 入 (献金・他)					前年同 期比 (%)
献金区分	2020年度(4月～10月)		前年度同期		
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
後援会費(団体)	22	342,600	20	424,250	81%
〃(個人)	116	921,610	93	760,600	121%
記念日他献金(団体)	56	709,268	46	768,285	92%
〃(個人)	107	816,566	70	483,000	169%
ひとつぶ献金(団体)	16	673,100	21	765,200	88%
グッズ/コンサート		62,350		144,650	43%
合 計	317	3,525,494	250	3,415,985	103%

発行 農村伝道神学校後援会
 会長 島 しづ子
 事務局長 長谷川りゑ子

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024
 TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711
 Eメール: kouenkai@noden.ac.jp
 ホームページ: https://noden.ac.jp/
 振替番号 00120-6-24418